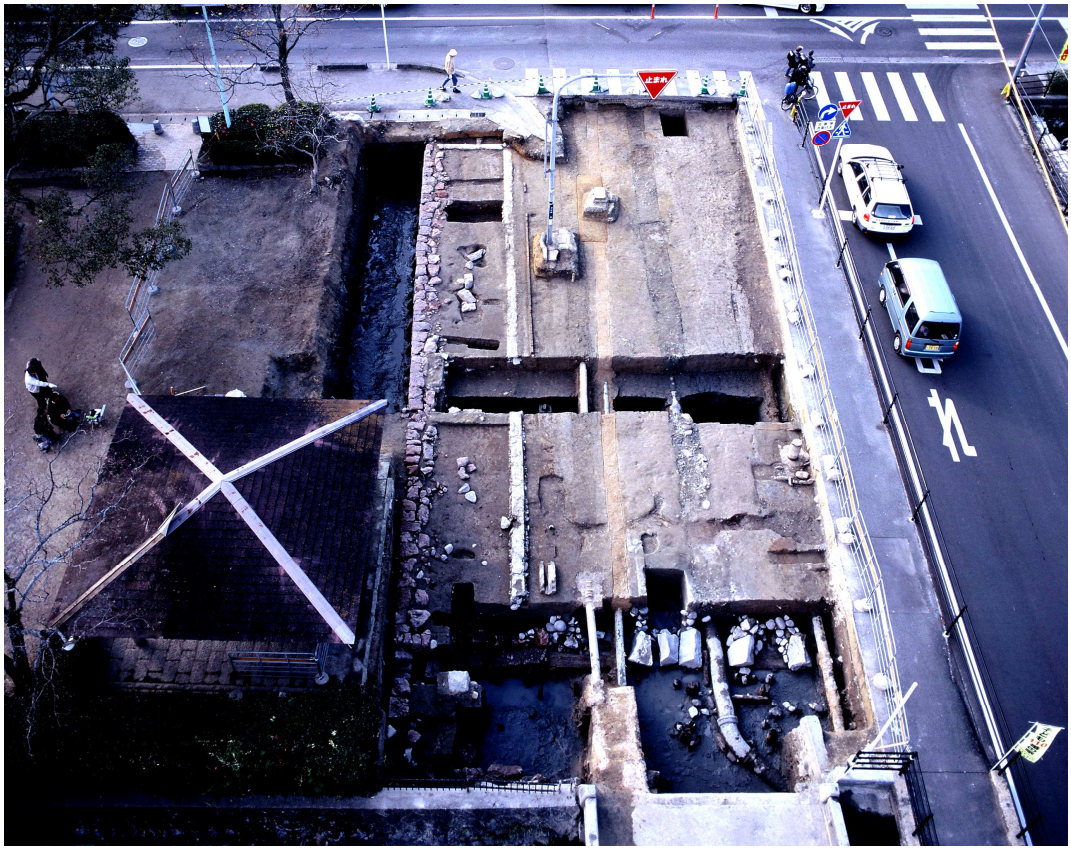
さがじょうあと

佐賀城跡

―現地説明会資料―



期日：平成１９年２月１８日（日）
主催：佐賀市教育委員会
協力：佐賀市建設部道路課
場所：佐賀市城内一丁目（都市計画道路城内線建設地内）

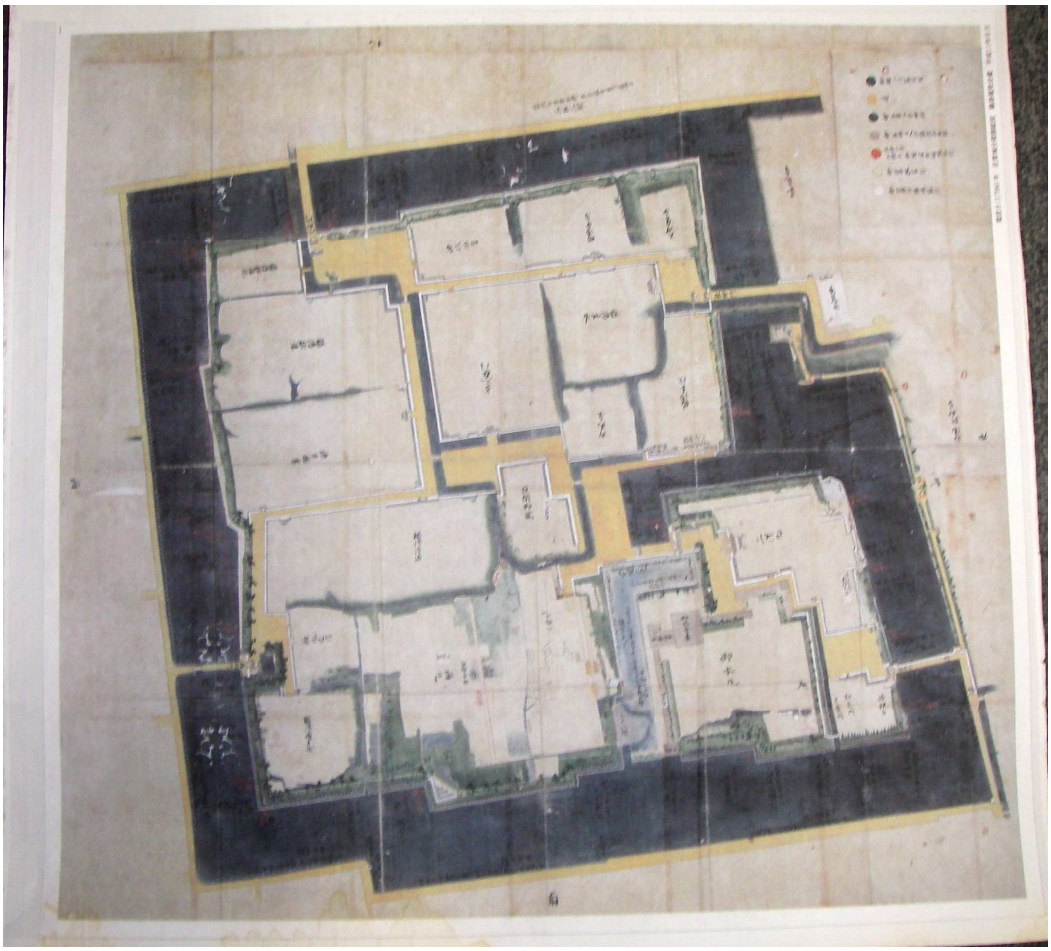
都市計画道路城内線建設に伴う佐賀城跡発掘調査の成果について

１．佐賀城について

佐賀城は、もともと龍造寺氏の居城であった村中城を鍋島直茂・勝茂父子が慶長１３年（１６０８）から慶長１６年（１６１１）までの佐賀城総普請によって拡張整備したもので、周囲を幅４０間程の堀に囲まれた典型的な平城です。

築城当時の佐賀城の特徴の一つとして、天守を中心として本丸の北側及び西側には石垣が築かれているものの、それ以外の部分はすべて土手を巡らせているということがあげられます。ただ、このことから歳月が経つと堀岸の土留めを行っていた板垣（板搦）が腐り、土手の崩落などが目立つようになったため、約２００年後の寛政年間（１７８９～１８０１）を中心とした時期に赤石を用いた石積みの護岸（石搦）に作り変えられました。

※赤石とは通称で、正式名称を安山岩質凝灰角礫岩といいます。多久市両子山近辺が主な産出地として知られています。



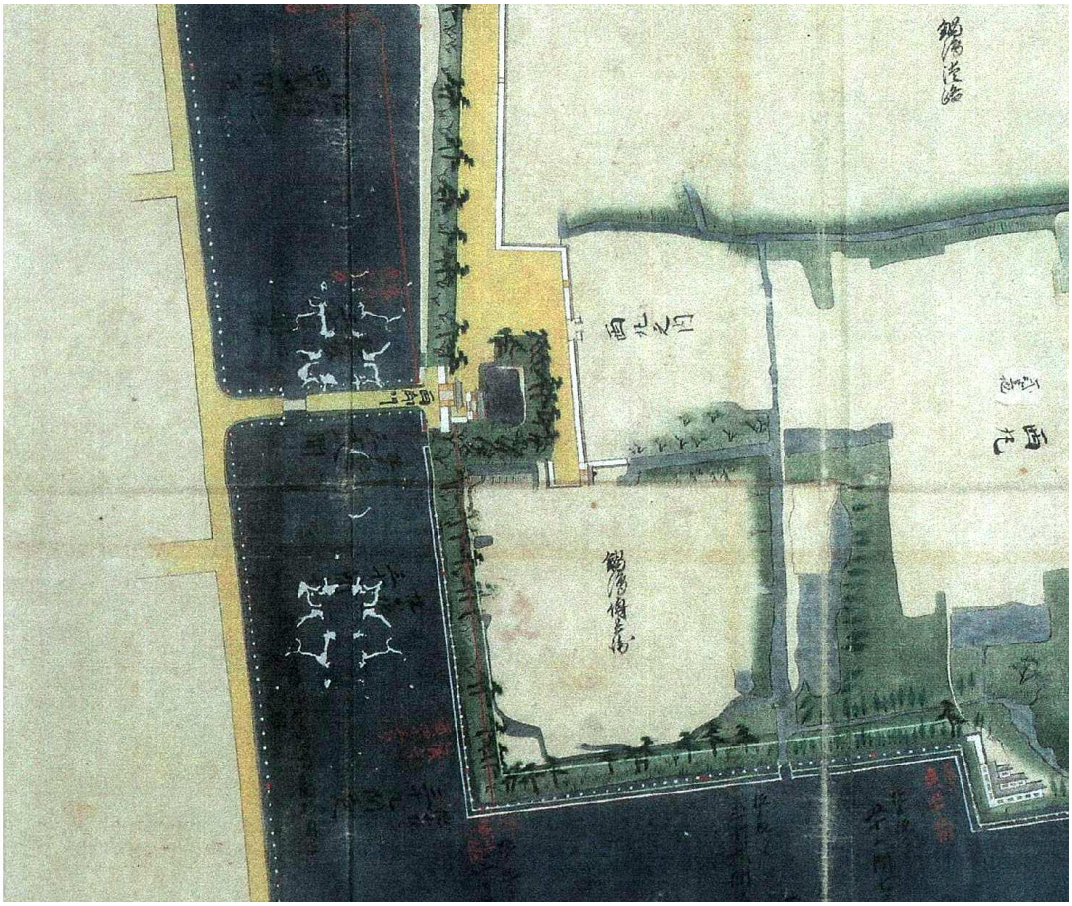
佐賀城分間御絵図

２．佐賀城西御門について

佐賀城には出入り口が北堀沿いと東及び西堀沿いに計４ヵ所（北御門（きたのごもん）・東御門（ひがしのごもん）・西御門（にしのごもん）・裏御門（うらごもん））設けられています。

特に、西御門は方形の土手を廻らせた枡形虎口（ますがたこぐち）の形態をとり、前面の通路は土橋と木橋を組み合わせるなど、外敵の進入を防ぐことに主眼が置かれた構造となっています。

※非常時には途中の木橋を落とし、外敵の進入を防ぐ構造だったと考えられます。



佐賀城分間御絵図（西御門部分アップ）

３．発掘調査について

都市計画道路城内線建設に伴う佐賀城跡（西御門部分）の発掘調査は、平成１８年８月から着手し、平成１９年２月末で現地調査を終了する予定です。

４．調査成果

○土橋南側の赤石護岸がほぼ完全な状態で残っていることが確認できました。

・赤石護岸は、まず沈み込みを防止するために木の胴木を横に並べ、その上に一辺３０cm程のものを５～６段積み上げています。また、積み上げた石の重みで護岸が前面に滑り出すことを防止するため、角杭や丸太杭を胴木や腰石の前に密に打ち込んでいる状況も確認されました。

西側土橋赤石護岸検出状況

東側土橋赤石護岸検出状況

赤石護岸石積み状況（西側土橋部分）

石押さえ木杭検出状況

○通路中途にある木橋の橋台部分には安山岩系石材の割り石を使用するなど、目的に応じて石材の使い分けを行っていたことが確認されました。

西側土橋東端部検出状況

木橋橋台部検出状況

○赤石護岸の一部で二重に赤石積みを行っている箇所が検出されました。現在その理由はよく判っていませんが、補強の目的で行われたものかもしれません。

赤石護岸二重積み状況

○西側土橋部分が３メートル程東側に拡張され、木橋の長さが短くなっていることが確認されました。これは、防御を目的としたものからの方向転換とも考えられ、当時の佐賀城をとりまく社会情勢が強く影響しているものと思われます。

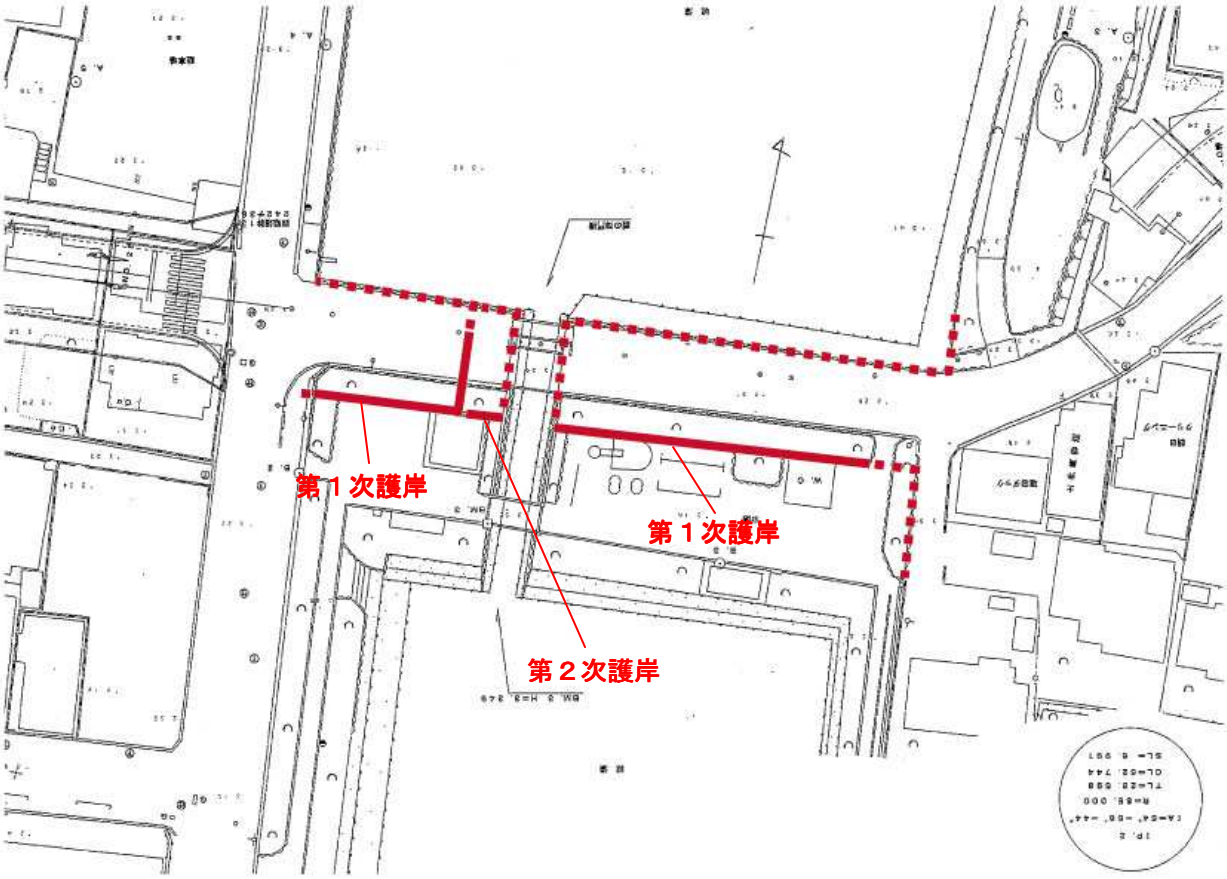
西側土橋拡張部

西側土橋拡張部アップ

○東側土橋部分で赤石を刳（く）り貫（ぬ）いて作ったU字溝も検出されています。これは、周辺を石の護岸に作り変え、上面の排水性が悪化したことに起因して取り付けられたものと考えられます。

赤石刳り貫きＵ字溝

赤石刳り貫きＵ字溝



５．今回の調査意義

○佐賀城という佐賀を代表する文化財が、現道下であるにもかかわらず非常に良好な状態で残っていることが確認できました。

○今回の調査で、西御門前面の通路を造作するためにさまざまな土木技法が使われていることを明らかすることができました。その多くは佐賀平野という低平地軟弱地盤を克服するための技術であり、近世期の土木技術史を研究する上で非常に良好な資料となりました。

○今回の調査で、佐賀城は土橋の拡張に見られるような当時の社会情勢の変化の影響を受けながら絵図や文献に現れない小規模な改築を繰り返している可能性がでており、近世城郭を研究する上で極めて興味深い資料を得ることができたということができます。